

花火

小林まもる

口をあけたまま
人が飲み込むものは
闇の深さだ
花火が自らの華を
裂き続けるのは
太古の闇の
時間に向かつてだ

血を逆流させながら
ときを遡ると
こんどは人が裂かれる
まず腸壁から崩れだし
人は立つたまま
汚い下痢をしながら
そのとき人は
おのれの歴史に立つ

破裂する華の轟きに
その都度堪えようもなく
崩れ逝く生身の意識
おのれの花火よ
明滅する意識の荷電
その下痢を
色つきの夢のように
見届けねばならない